
本邦多発性骨髄腫患者における顎骨壊死(ONJ)の実態

日本骨髄腫研究会、清水一之¹、名倉英一²、島崎千尋³、畑 裕之⁴

名古屋市立緑市民病院¹、常滑市民病院²、京都府立医科大学大学院医学研究科血液病態制御学³、
熊本大学医学部附属病院血液内科⁴

【目的】2004年12月のASHで多発性骨髄腫患者におけるONJが報告され、ビスフォスフォネート(BP)製剤との関連が指摘されている。2005年7月IMFは実態調査に着手したが、今回の日本骨髄腫研究会の調査はこの依頼を受けたものである。【方法】アレディアの投与が可能となった1994年9月から2004年12月までに日本骨髄腫研究会所属施設において多発性骨髄腫として診断・治療を受けた患者数とONJと診断された患者数の郵便でのアンケート調査を行った。【結果】49施設から期間内に3133名の患者が申告され、その中でONJは2例(疑い1例を含む)報告された。【結論】本邦におけるONJ発症率は0.06%で、米国からの9%との間に際だった違いが明かとなった。